

平成30年度 船員災害疾病発生状況【災害編】①

今週と来週で、昨年度の船員災害について紹介します。
※30年度の数値は、速報値です。

▽死傷災害発生人数(死亡および行方不明者数)

船種	30年度	29年度
外内航船	161人(8人)	196人(10人)
漁船	316人(11人)	299人(13人)
※その他	105人(2人)	73人(11人)
合計	582人(21人)	568人(34人)

(※官公庁署所属船および起重機船などの作業船)

災害発生状況は、前年度より14人増、死亡および行方不明者は13人減となりました。

▽死傷災害中、発生数の多い様態

- 「転倒」……………114人(20%)
 - 「はさまれ」……………107人(18%)
 - 「転落・墜落」……………76人(13%)
 - 「動作の反動・無理な動作」……………58人(10%)
 - 「飛来・落下」……………36人(6%)
- 上位を占める災害発生時の様態は、一部順位に変動(3位と4位)はありましたが、前年度と同じでした。

災害発生時の様態別の主な原因は次の通り。

▼「転倒」の主な原因

- ①つまずき・滑りなど
(主な起因:「雨や水などでぬれた甲板上や通路など」で滑ったり、「用具・工具、漁具・漁網や積み荷など」や「船体構造物」につまずく)
- ②波浪に起因するもの

【災害防止対策】

滑りにくい底の靴を履く、床面に滑り止めテープを貼る、移動の際には、ハンドレール等につかまることを徹底するなどの対策を行い、災害を未然に防ぎましょう

▼「はさまれ」の主な原因

- ①甲板装置・魚ろう装置によるもの
(主な起因:係船作業中に係船索とローラーに手、指をはさむ)
- ②漁具・魚網によるもの

【災害防止対策】

作業現場には十分な照明を行うなど、船内設備、作業方法等について見直しましょう

▽死亡および行方不明者21人中、発生数の多い様態

- 「海中転落」……………15人(71%)
 - 「はさまれ・まき込まれ」……………3人(14%)
- なお海中転落は、夜間や単独での作業時、上陸後の帰船時など、人が見ていないときに多く発生しており、死亡率が46%(24人中11人)と依然として高い。

〔ファクスだより〕

2020年3月27日(金曜日)